

福井市自然史博物館

博物館だより

FUKUI CITY MUSEUM OF NATURAL HISTORY NEWSLETTER



19時6分



20時7分



20時17分



20時38分



20時43分



20時50分

足羽山龍ヶ岡古墳西方にて梅村信哉撮影(2009年8月12日)

福井の自然史情報

ミンミンゼミの羽化

夏の身近な昆虫の代表である「セミ」。

しかしながら、その詳しい生態は分かっていないものがほとんどです。

足羽山でよく見られるミンミンゼミも、

土の中で5～6年過ごしてから地上にでてきて羽化すると考えられていますが、

詳しい生態の解明はまだまだこれからです。



中面にセミについての解説があります。

今年の夏は、特別展で
「川のお魚通」!

福井市自然史博物館 第70回特別展



川のお魚大集合! 福井の淡水ギョ展

2010年7月17日(土)~10月11日(月・祝)

こんなにいるヨ! 福井の淡水魚

日本の川や湖には約180種類の淡水魚が知られており、福井県内でも約100種類の淡水魚の生息が記録されています。今回の特別展では、そのうち何と70種類もの淡水魚を生きた状態で展示します。童謡にも登場する「メダカ」や「ドジョウ」、清流の指標となる「カジカ」や「ヤマメ」、私たちの食卓にのぼる「アユ」や「ウナギ」なども勢ぞろい。中でも、昔は普通にいたのに、今ではめったに見ることがなくなった「ナマズ」、場所によっては国の天然記念物に指定されている「イトヨ」や「カマキリ(アラレガコ)」などは必見です。また、繁殖期の美しい体色が魅力の「オイカワ」や「タナゴ」のなかま、そして、「ウキゴリ」や「ゼゼラ」など名前を聞くのも初めて!という魚なども紹介します。意外な顔つき、意外な泳ぎっぷり、そして意外な生活ぶりを知ること、それらの魚がすむ福井の川や湖の環境にちょっと目を向けてみませんか。

ズラリと並んだ水そうの中を泳ぎまわる淡水魚の観察のヒントをご紹介します。



お魚の顔に注目!

「ドジョウ」や「アカザ」などの魚は、口ひげがあり愛きょうのある顔立ちをしています。この「口ひげ」は、実はエサを探すために活躍しているのです。また、「コイ」の口はやや下向きについています。これは水底でえさを拾って食べるのに都合がよいと考えられています。また、「スナヤツメ」の顔だちはとてもユニークで、あごがなく、口が吸盤のようであり、顔の横には目のような7つのエラ穴が並んでいます。それぞれの魚たちのユニークな顔つきとその機能をじっくりと観察してみてください。



アカザ (松田隆善撮影)



お魚の動きに注目!

水そうの前で、じっくり時間をかけてながめてみると、それぞれの魚の意外な行動に気づくでしょう。例えば、「ヌマチチブ」などハゼの仲間には、腹びれが吸盤に変化し、その吸盤で岩に吸い付いて岩をのぼるものがあります。水そうのガラスに吸い付いていれば、よく観察することができますよ。また、すばやい動きをする魚の代表は「ヤマメ」や「イワナ」です。急流にすむ彼らのエサは落ちてきた水生昆虫などで、それらをすばやくキャッチする習性があります。「お魚のお食事タイム」で、実際にエサをあけて観察してみましょう。



ヌマチチブ (松田隆善撮影)



外国からやってきたお魚に注目!

もともと日本の川や湖にはいなかったのですが、人間によって外国から持ち込まれ、現在日本にすみついている魚たちがいます。なかでも「ブラックバス(オオクチバス、コクチバス)」や「ブルーギル」は、以前からすんでいた魚などを食べてしまい、生物相のバランスを大きく崩してしまうことが問題視されている魚です。これらの魚は、新聞やニュースでその名前をよく耳にしますが、泳ぐ姿を見た人は少ないのではないのでしょうか。この機会にぜひ実物をご覧になってください。



ブルーギル (松田隆善撮影)



お魚のすんでいる環境に注目!

淡水魚と一口に言っても、真水にしかすめないものもいれば、塩分が混じる汽水域にすんでいる魚もいますし、「アユ」や「ウナギ」などのように川と海を行き来するタイプのものもいます。また、川のような流れのある環境を好むものもいれば、湖や池など静かな水域を好むものもいます。川でも、上流域の岩場をすみかとするのは「ヤマメ」や「カジカ」で、中流域を代表するのは「ウグイ」や「カワムツ」とそれぞれ好む環境が違います。さらに、「ゲンゴロウブナ」、「ナマズ」のように、多少にごった泥底でも平気な魚もいますので、その環境にも注目して見てみましょう!



北湯湖に注ぐ観音川



足羽川志津原付近



天然記念物のお魚に注目!

福井県内には、その生息地が国の天然記念物に指定されている淡水魚がなんと2種類もいます。「イトヨ」と「カマキリ(アラレガコ)」です。「イトヨ」は、背に垂直に立つ三本のトゲをもつのが特徴で、淡水と海水を行き来するタイプと、一生を淡水で過ごすタイプとがいます。後者は冷たいきれいな湧き水でしか生息できず、大野市糸魚町の本願清水は、このタイプのイトヨ生息地の南限となっており、1934(昭和9)年に国の天然記念物に指定されています。

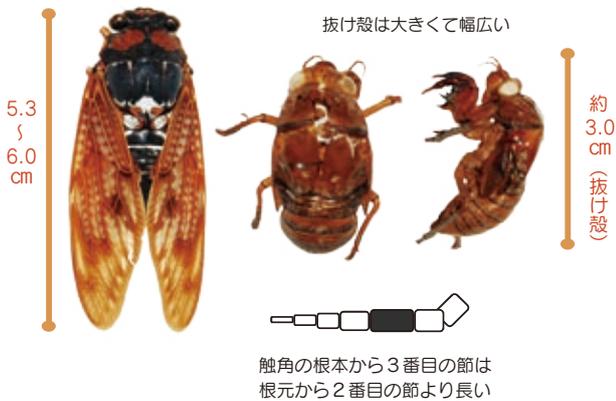


イトヨ (本願清水イトヨの里撮影)

一方、カジカのなかまである「カマキリ」は、産卵のために11月末から12月頃、ちょうど福井では“あられ”が降るような時期に川を下る習性があるといわれており、“あられに腹を打たれながら川を下る”ということから福井では「アラレガコ」と呼ばれます。九頭竜川産のアラレガコは大型に成育し、1935(昭和10)年に国の天然記念物として福井~大野の区域が地域指定されています。

足羽山で見られるセミ

アブラゼミ



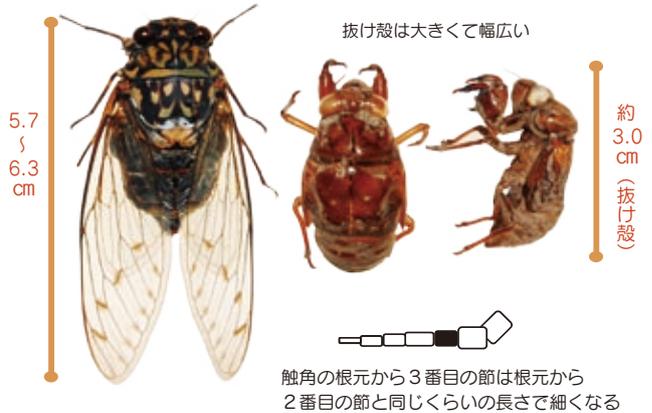
抜け殻は大きくて幅広い

約 3.0 cm (抜け殻)

触角の根本から3番目の節は根元から2番目の節より長い

成虫の出現期：7月中旬～9月下旬

ミンミンゼミ



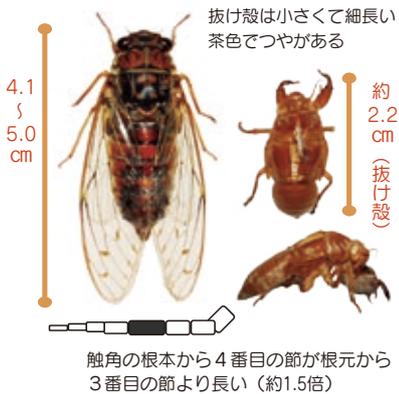
抜け殻は大きくて幅広い

約 3.0 cm (抜け殻)

触角の根元から3番目の節は根元から2番目の節と同じくらいの長さで細くなる

成虫の出現期：7月下旬～9月下旬（8月に多い）

ヒグラシ



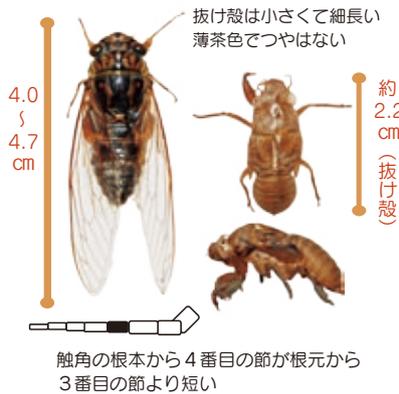
抜け殻は小さくて細長い
茶色でつやがある

約 2.2 cm (抜け殻)

触角の根本から4番目の節が根元から3番目の節より長い（約1.5倍）

成虫の出現期：7月上旬～9月上旬

ツクツクボウシ



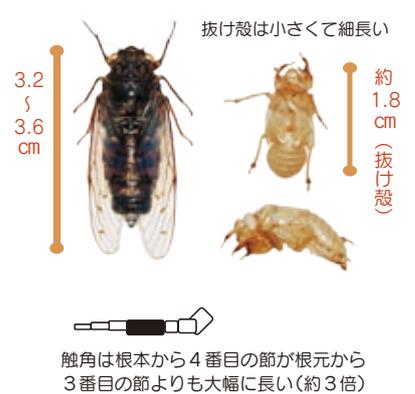
抜け殻は小さくて細長い
薄茶色でつやはない

約 2.2 cm (抜け殻)

触角の根本から4番目の節が根元から3番目の節より短い

成虫の出現期：7月下旬～10月

ハルゼミ



抜け殻は小さくて細長い

約 1.8 cm (抜け殻)

触角は根本から4番目の節が根元から3番目の節よりも大幅に長い（約3倍）

成虫の出現期：4月下旬～6月上旬

ニイニゼミ



抜け殻は小さくて丸くドロだらけ

約 1.9 cm (抜け殻)

成虫の出現期：6月下旬～9月上旬

チッチゼミ

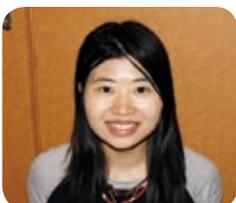


翅をたたんだとき、
後翅が背中につきでる

成虫の出現期：8月～10月下旬

このほかにも、
クマゼミや
エゾゼミが
見られるかも
もしれません。

新任職員の紹介



学芸員（非常勤・動物担当）
丸山 紗知（まるやま さち）

4月から、動物担当学芸員として着任いたしました。大学・大学院と、野生動物と生物生産との関係についての研究を行ってまいりました。福井の自然史研究に関することはもちろんのこと、福井市自然史博物館が市民の方々にとってより身近な博物館となりますよう、博物館活動に貢献していきたいと思っています。動物の情報等がありましたら、是非ご連絡ください。お待ちしております！

福井の植物に思いを寄せて

齊藤政美 (宮崎県総合博物館副館長)

この度縁がありまして、福井市自然史博物館から植物の標本をいただくことができました。宮崎県の博物館が福井の標本をもらって何の役に立つのかという声があるかもしれませんが、そんなことはなく大いに役立つのです。一例を挙げますと、「カスミザクラ」という植物があります。福井県には多いのでしょうか。宮崎県ではこれまで確認されていません。しかし今、宮崎県のある山のものがかスミザクラではないかととりざたされています。私はまだ実物を見ていませんが、もしその山の標本が届けば確認作業をすることになります。有り難いことに、今回いただいた標本の中にカスミザクラがありました。最終的にはこの標本と比べることになります。早速役に立ちそうです。

そんなわけで、いただいた標本の中から、興味深い福井の植物をいくつか紹介したいと思います。まず、「ヒュウガミズキ」です。図鑑では、分布は石川県、福井県、京都府、兵庫県となっています。そうなのです。宮崎県(日向)にヒュウガミズキはないのです。変な話ですね。一説によると、トサミズキに似て小さいのでヒメミズキの名があり、それがなまってヒュウガミズキと呼ばれるようになったということです。代わりに宮崎県にはクリシマミズキがあります



[写真1] クリシマミズキ

《あとがき》

今春、重複している当館所蔵の植物標本を宮崎県立総合博物館に寄贈しました。受け取られた際に「宮崎とは違っておもしろい!」とおっしゃっており、「どんなふうが違うのかなあ」と気になってエッセイの執筆をお願いしました。博物館の収蔵標本は一般の方にはあまりなじみがないと思いますが、エッセイでご紹介いただいたように比較標本として全国各地、世界で活躍できるということを私自身も実感させていただくことができました。実は一度も訪れたことのない宮崎なのですが、標本と齊藤副館長さんのおかげでぐっと近くに感じられるようになりました。(安曾)

《交通案内》

【電車】
福井鉄道福武線 公園口駅 徒歩約20分
【バス】
コミュニティバスすまいる：西ルート(足羽・照手方面)
愛宕坂バス停 徒歩約10分
京福バス運動公園線(70号系統)久保町バス停 徒歩約15分
【徒歩】
JR福井駅から徒歩約30分

《ご利用案内》

開館時間 ●午前9時～午後5時15分(入館は午後4時45分まで)
休館日 ●月曜日(祝休日は開館)、国民の祝休日の翌日、年末年始
入館料 ●高校生以上100円(20名以上の団体は半額)
中学生以下、70歳以上、
障害者および付添の方は無料



[写真2] キリタチヤマザクラ

次に興味深いのは「オオヤマザクラ」です。オオヤマザクラは東日本に一般的に見られ、西日本はヤマザクラが一般的に見られると言われています。つい最近まで、九州ではオオヤマザクラは見つかっていませんでした。それが、宮崎県で見つかったのです。しかし、図鑑と照らし合わせると、記載が合わないところがありました。それは花柄(茎や枝から枝分かれして花を支える柄)の長さです。こちらのもものは4cmとかなり長いのです。それで、地元の地名にちなみ「キリタチヤマザクラ」と名づけられました[写真2]。私もそれに関わりましたので、オオヤマザクラの標本をいただいたのは大変うれしいです。

文字数が残り少なくなりましたが、「ズミ」や「ギョウジャニンニク」も興味深いです。ズミはこちらには無く、代わりに「ノカイドウ」があります[写真3]。ギョウジャニンニクは九州にはありません。食べてみたい植物の一つですが、残念ながら一度も口にしたことはありません。



[写真3] ノカイドウ

このようにいただいた標本のリストを見ているだけで、いろいろな思いがわき上がってきます。福井県は昔一度ちょっとおじゃましたことがありますが、植物は見えていません。今、リストを見ながら福井の自然に思いをさせています。いつか実際に訪ねることができるといいなと夢見ながら。

